

まえがき



理事長 脇 茂行

直下型大地震である「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」（阪神・淡路大震災）の発生から3年余りの月日が経過いたしました。

地震という自然界の破壊力により、神戸港の港湾施設は岸壁や荷役機械を中心に甚大な被害を被りました。当公社の施設においても、昭和42年の阪神外貿埠頭公団設立以来、営々と築いてきたコンテナ埠頭をはじめとして全ての施設が破壊的打撃を被りました。

わが国の代表的な国際貿易港として、中核的な役割を果たしてきた当公社施設の機能停止は、国内外の経済活動に大きな影響を及ぼすこととなりましたが、このような状況から1日も早い復興を目指し、震災直後に策定した公社埠頭の復旧・復興計画の基本柱である“概ね2年で公社埠頭施設の復旧を完成させる”という目標どおり、無事に災害復旧工事を完了させることができました。

これもひとえに、国や神戸市をはじめ港湾関係団体の絶大なるご支援、ご協力の賜物と深く感謝するとともに、ユーザーおよび施工に携わられた皆様方に厚くお礼を申し上げます。

本工事誌は、災害復旧における復旧設計および復旧工事について、その概要をとりまとめたものです。何分、早期復旧ということでも十分な調査、検討がなされていないところもあろうかと思われませんが、本冊子が、今後の設計・施工及び維持管理の参考になれば幸いです。

なお、平成9年5月に発行した「公社埠頭復旧復興記録－阪神・淡路大震災から明日に向かって－」と一部内容が重複している箇所もありますが、あわせてご覧頂ければと存じます。

平成10年3月